

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600534		
法人名	特定非営利活動法人あたか		
事業所名	グループホームあたか		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2		
自己評価作成日	平成26年7月4日	評価結果確定日	平成26年7月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあたかは、自然豊かでのどかな環境にあります。周囲を囲む山々の新鮮な空気はもちろん、鳥のさえずり、虫の音、陽の光、月や星の美しさなど、大自然を五感で感じていただけます。また、敷地内で採れた四季折々の旬の野菜達が毎日の食卓を彩ります。ゆったりと流れる時間の中で、笑顔あふれる家庭的な雰囲気が保てるように職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設年数を経る毎に入居者の顔ぶれは変わるが、自家菜園で採れた季節の野菜の下ごしらえは恒例行事として継続し、入居者の楽しみとなっている。職員の定年退職に伴い、新規に入職した職員は現場で培った経験もあり、毎朝のミーティングでは、介護計画作成担当者への情報提供、レクリエーションや生活リハビリを検討している。また、認知症実践者研修に参加する職員も多く、介護福祉士の資格を取得した職員もあり、今回初めてグループホーム介護支援専門員研修が地域包括支援センター主催で開催され、担当者が出席している。このような人材育成や研修参加で、開設当初からの理念を実践しているが、より共有しやすく見直しを模索している。地域との交流や運営推進会議を通じて、今後も現理念の入居者を人生の先輩として尊重し、尊厳のある生活支援が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあたか**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりが、その人らしい日常生活を送れるように、管理者と職員は思いを共有し、心通い合いサービスの提供を目指している。	事務所に掲示された開設当初からの理念を実践しているが、より共有しやすく見直しを模索している。理念の入居者を人生の先輩としてのくだりを噛みしめながら、日々ケアをしていると話す勤続年数の長い職員もあり、現在の理念が浸透していることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、食材の買いだしで地元の道の駅を利用したりと、地域住民との交流を保てるようにしている。	地域の神幸祭の見学に出かけたり、老人会主催の敬老会には、管理者がお酒やタオルを持って、お祝いに駆けつけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加することで、認知症の方々の理解を深めてもらうようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者家族の意見を尊重し、いただいた意見や希望については、柔軟に対応できるようにしている。	適切なメンバーで定期的に関行され、議事録を整備している。会議では、報告した入居者の状況に質問を受けたり、地域高齢者の相談窓口の設置や活用状況、ノロウイルス対策等の情報が民生委員や市担当者から提供されている。今後はホームの食事を交えての会議なども考慮している。	定期的に発行しているホーム便りに、会議抄録を掲載することで、運営推進会議の理解や家族の参加の促進を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加し、事業所の実情や活動内容を報告し、協力・相談しやすい関係を築いている。	地域包括支援センターとは日頃から、協力体制を築いている。今回初めてグループホーム介護支援専門員研修が地域包括支援センター主催で開催され、担当者が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、外出傾向の強い入居者が3名いるため、御家族の希望もあり、玄関に施錠をしております。利用者の安全面を考慮した身体拘束に関しては、必ず御家族の同意を得ています。介護者都合の身体拘束は、今までこれからもありません。	玄関の施錠について、運営推進会議で意見やアドバイスを受け、社是の尊厳や尊重のあるケアを目指している。場所や時間に構わず、排尿や排便をする入居者があり、家族に同意を得てつなぎ服を着用してもらい、笑顔で他の入居者との共同生活が継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞で虐待の報道があった時は、朝礼時に話し合う機会を設けている。決して人事とは思わず、職員同士が互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の認識や理解に乏しい。必要性が出てから学ぶのでは遅いので、研修等があれば積極的に参加したい。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を整備している。遠方在住の親族もあるが、現在まで制度等の活用はない。	今後、様々な家族構成や状況が予測されることから、研修会に参加し、制度等の内容やその違いを全職員で共有されることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明が一歩的にならないように、利用者や家族が十分に理解・納得しているか、不安や疑問点はないか、尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常の会話で、御家族からは面会時や運営推進会議の際に、こちらから意見・要望を伺うようにしている。	定期的にホーム便りを発行したり、廊下に入居者の日頃の様子のスナップ写真を掲示し、家族の意見の表出を促している。外出させてほしいとの家族の要望には、積極的に取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の意見や提案は、毎日のように行われている。代表者や管理者への垣根も低く、気軽に意見や提案ができる。	毎週のミーティングは時間をかけて、介護計画作成担当者への情報提供、職員のレクリエーションや生活リハビリの提案を検討している。内容は、連絡ノートで周知や共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎回朝礼に参加し、職員の勤務状況を十分に把握している。また、食事会等を定期的に行い楽しみの機会も設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準法に沿って労働条件を整え、採用にあたっては人間性を重視し、老若男女学歴問わず採用している。定年も70歳としている。また、現職員の権利も十分に保証されるように配慮している。	定年で退職者があり、ハローワークやロコミで新規入職者があった。休憩室を確保し、交互に昼休みを取っている。認知症実践者研修に参加する職員も多く、介護福祉士の資格を取得した職員もいる。新規入職者も資格取得者で、現場の経験で培った意見も多く、生き生きと働ける職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人生の大先輩である入居者の方々には、常に尊敬の念で接するようにしている。しかし、人権教育や啓発活動への取り組みが乏しい。直近の研修や勉強会へは、ぜひ参加し、職員間で共有したい。	理念を実践するために、社是や笑顔の心の10か条を事務所に掲載している。管理者は朝のミーティング等で人権に配慮したケアについて話す機会が少なくなったと話しているが、入居者の生活歴や職歴を重視し、プライドを尊重したケアを実践している。	人権に関する研修会への参加の実現を期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、毎日職員と顔を合わせている為、一人ひとりのケアを十分に把握している。 また、資格取得へ向けてのサポートやスキルアップに繋がる外部研修を確保している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部の研修や勉強会に積極的に参加し、同業者間での情報交換やネットワークづくりを行えるように心がけている。また、掛け持ちのケアマネを通して、他のグループホームの良い点を真似、サービスの質の向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人と御家族からこれまでの生活状況を十分に伺っている。また、入居に際して不安や要望があれば、全職員で話し合い、安心して生活できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談では、御家族の話を十分に伺い、会話の中から入居に際しての不安や要望等がないかを感じ取り、引き出せるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりにあったサービスが提供できるよう、常に柔軟な対応に心がけている。また、必要な際には他のサービス機関に相談し、利用できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯等、ご自身で出来る事は無理のない程度にお願いし、入居者と職員が互いに支え合う共同生活者としての関係になるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や一時帰宅時には、日頃の様子や状態をさりげない会話の中に取り込み、入居者と御家族の絆がより深まるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、本人に馴染みのある場所を経由したりしながら、思い出話を楽しんだりしている。	家族との外出や墓まいり、選挙の投票を支援している。桜の花見は、入居者に馴染みのある場所を選んで出かけている。また知り合いが尋ねて来ても、会いたがらない入居者もいるが、必ず来訪者のことを伝え少しでも関係を繋げていけるよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやおやつの時間等、利用者同士が顔を合わせる時間が楽しい時間となる様、自室にこもりがちにならないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのイベントへの参加を呼びかけたり、見舞いに行く等、その後の様子も気にかけて、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や意向を感じ取り、無理なく心地よい暮らしができるように努めている。	整備したフェースシートやアセスメントシートで入居者の思いや意向を把握している。朝のミーティングを活用し、各職員が把握した入居者の情報を共有している。	入居者の心身の状況の変化や職員間の情報をアセスメントシートに書き加え、さらなる思いや意向の把握に期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、これまでの暮らしぶりや馴染みのもの、生活環境等を伺い、本人にとって一番過ごしやすい環境になるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態や生活ぶり、本人の発した言葉はそのまま記録し、全職員がいつでも把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、職員の気づき等を参考にモニタリングし、一人ひとりの現状に即した介護計画の見直しを行っている。	夜間不眠で自室でゴソゴソと動き回る入居者にレクリエーションでリーダーとして声掛けをお願いした所、生き生きとした表情を見せた。本人が退屈しないように、生活の中で役割探しや役割づくりを検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話の内容、気づきは、個別に記録し、職員間で共有している。また、その記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族のニーズには、可能な限り応えるよう、型にはまらないよう柔軟な対応を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常会話で、新聞の地方欄や地元職員等から、地域ならではの話を盛り込むようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への定期受診を行い、診療の様子や医師からの指示は、全職員が把握できるようにしている。	入居者の症状を正確に把握し、通常受診する医療機関以外の受診を支援し、流涎がなくなり姿勢保持ができるようになった入居者もある。受診後の指示や薬の変化は、申し送りノートで共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、介護職員を兼務し、週1回の夜勤もこなしている。週3日のバイタル測定や個々の聞き取りも行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は、定期的に見舞いに行き、御家族や看護師等の話から、現状を把握し、早期の退院支援に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方についての方針を定め、家族には事前説明している。また、日頃から医療機関との連携を図り、急変の際には適切な対応ができるようにしている。	既往症等の重度化で、入院のため退居した入居者はあるが、看取りはない。重要事項説明書で、医療機関との連携を速やかに行う体制について説明している。現在入院中の方は、以前退院後一時期ホームで生活できたこともあり、家族の希望で居室をそのままにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な訓練や知識はある。実際に起きた急変や事故発生時には、早急にミーティングを行い、その対応が適切であったか、間違いはなかったかを話し合っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火避難訓練を行っている。また、緊急連絡網を作成し、すぐにでも職員が駆けつけ、対応できるようにしている。	運営推進会議で避難訓練について報告しているが、避難訓練に時間がかかることが課題となった。緊急通報システムを整備し、業者が年2回定期検査を実施している。	地元消防団が結成されているので、ホームへの理解や協力をお願いされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の立場に立って考えることで、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。	入居者の心身の状況や生活歴、職歴に応じて声掛けや対応を行っている。穏やかなゆっくりとした対応で、笑顔になる入居者が多く、職員の手拍子で炭鉱節を笑顔で披露する入居者もあった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一歩的な語りかけではなく、会話のキャッチボールを楽しむように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、無理のない支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に数回の美容の日を設け、毛染めやカットを行っている。衣類の希望があれば、すぐに御家族に相談している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で採れた季節の野菜の下ごしらえは、恒例行事であり、とても楽しみに作業される。味見や配膳準備、後片付けも無理のない程度にお願いしている。	入居者の咀嚼や嚥下状態に応じて、刻み食を用意している。入居者間の相性等に配慮して、席を替えたり、食べやすいように、管理者が椅子の足に板を張り付けて高くしている。職員が同じテーブルで同じ食事を食べながら、見守りや介助をしているが、食事が美味しいと好評で、完食する入居者が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や嚥下機能を考慮したうえで、栄養バランスのとれた献立にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声かけを行っている。また、必要に応じて訪問しかを利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導や介助を行い、おむつの使用頻度を減らすように支援している。	リハビリパンツの着用が多いが、布パンツに尿取りパットを使用している入居者もある。夜間1時間毎にトイレに行く下肢の動きが悪い入居者は、トイレで排泄したい気持ちを重視しながら支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分量の確保、レクリエーションや散歩で適度な運動の働きかけ等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて入浴支援を行っている。必要に応じて、清拭やシャワー浴も行っている。入浴を拒否する入居者には時間をかけてコミュニケーションを図り、決して無理強いしないように心がけている。	週3回の入浴を脱衣場と浴室に1名ずつ職員を配置し、入浴の順番を変えたり、入居者の気分に配慮しながら支援している。のんびりと長湯を希望する入居者もあるが、入浴後の疲労が心配と管理者は話している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人ひとりの体調に合わせた適度な運動を促す等して、夜間の安眠に繋がるように支援している。また、体力の落ちてきた入居者には、昼寝の時間を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況については、個別の服薬管理票で管理し、薬に変化があった際には、服薬後の様子に気にかけるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの残存能力に合った家事の役割をお願いしたり、買い物付き添い等気分転換になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加や花見、ドライブや散歩へ出かける等、単調な毎日にならないように支援している。	外出の誘いに拒否的な入居者もあるが、一緒に出掛けると楽しんでいると管理者は話している。日頃は季節や天候に応じて、ホーム周辺を散歩することが多い。運営者と縁が深い近隣の神社への初詣も、恒例となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、一緒に買い物に出かけることは可能。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に自室で電話できるように支援している。また、御家族宛の年賀状作成のお手伝いをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気心をかけている。食堂横に畳の居間があり、テレビ、ソファ、座卓を設置している。休息以外で、自室に籠る方はいない。廊下には、季節に合わせた生け花や制作物を飾るように工夫している。	廊下から玄関口がスロープのため、車椅子が玄関から飛び出し、玄関戸まで板張りをしている。板張りにはソファが置かれ、入居者のレクリエーションや昼寝の場所となっている。共有空間の食卓は恒例行事の野菜の下ごしらえの作業場となり、畳の間のソファでテレビを見る入居者も居る。空調や換気を管理され、日中は共有空間で寛ぐ入居者がほとんどである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外にも廊下や玄関前にソファやベンチを設置し、一人ひとりが好きな場所でくつろげる工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、個々の生活様式にあった部屋作りをしている。また、入居前のベッドや家具の持ち込みも可能で、使い慣れた居心地の良い居室となるように工夫している。	入居者の起居動作に配慮し、電動ベットを設置した居室や、弄便や排尿による汚染で床板を新しくした居室もある。ホームの筆筒を使いやすいと話す入居者もあり、それぞれに応じた居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレや風呂、居室には、目印をつけ、入居者が迷ったり不安になることのないような工夫をしている。		